

(学校番号 86) 令和4年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【与野南小学校】

①			4月27日		
目標・策					
知識・技能	R3年度全国学力・学習状況調査の自校結果より、国語・算数の「知識・技能」において、1pt向上させる。(R4年度全国学力・学習状況調査において、国語・算数・理科の「知識・技能」において、全国平均を上回る。)	⇒	「計算ドリル」や「ドリルパーク」等を併用しながら、文節の関係や図形領域等の定着を図る。		
思考・判断・表現	R3年度全国学力・学習状況調査の自校結果より、国語・算数の「思考・判断・表現」において、1pt向上させる。(R4年度全国学力・学習状況調査において、国語・算数・理科の「思考・判断・表現」において、全国平均を上回る。)	⇒	文章全体の構成や展開をモデリングで示したり、表現力を高めるための言語活動を工夫したりしながら「書くこと」についての力を高める。その際、ICTを効果的に活用していく。		
主体的に学習に取り組む態度	R4年度全国学力・学習状況調査の「国語の勉強は好きですか」、「算数の勉強は好きですか」、「理科の勉強は好きですか」の質問項目において、肯定的回答の割合を80%以上にする。	⇒	「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と思う児童の割合が高いことから、自力解決、伝え合い、練り上げの時間を確保することで、児童が主体的、協働的に学習に取り組める授業を展開していく。		

③			9月2日		
中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)					
知識・技能	変更なし	⇒	変更なし		
思考・判断・表現	変更なし	⇒	文章全体の構成や展開をモデリングで示したり、表現力を高めるための言語活動を工夫したりしながら「書くこと」「読むこと」についての力を高める。その際、ICTを効果的に活用していく。		
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒	変更なし		

②		8月17日	
全国学力・学習状況調査結果			
全国学力・学習状況調査結果・分析			
<p>国語の「知識・技能」においては、全国平均を上回っている。「思考・判断・表現」においては、全国平均を下回っており、特に「書くこと」「読むこと」の正答率が低かった。また、「国語の勉強が好き」と答えた児童は全国平均を下回っており、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出すことへの苦手意識がうかがえる。</p> <p>算数の「知識・技能」、「思考・判断・表現」ともに、全国平均を上回っている。また、「算数の授業が好き」と答えた児童も全国平均を上回っている。解き方がわからないときもあきらめずに取り組んだり、もっと簡単に解く方法がないかを考えたりする児童の割合が多いことから、算数に対する意欲の高さが結果に結びついていることがうかがえる。</p> <p>理科の「知識・技能」、「思考・判断・表現」ともに、全国平均を上回っている。授業の中で、観察や実験の結果からどのようなことが分かったのかを考えたり、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないのかを考えたりする児童が多いことが要因と考えられる。</p>			

④				2月24日			
さいたま市学習状況調査結果・分析							
小3	国語、算数ともに市の平均正答率を上回る結果となった。観点別にみると、国語も算数も「知識・技能」、「思考・判断・表現」において市の平均を上回っている。ただし、領域ごとにもと、国語の「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の正答率が市の平均を下回っている。	小4	国語、算数ともに市の平均正答率を上回る結果となった。観点別にみると、国語も算数も「知識・技能」、「思考・判断・表現」において市の平均を上回っている。ただし、領域ごとにもと、国語の「話すこと・聞くこと」の正答率が市の平均を下回っている。				
小5	国語、算数、社会、理科において市の平均正答率を上回る結果となった。また、観点別にみると、4教科すべての「知識・技能」、「思考・判断・表現」の項目で市の平均を上回っている。領域ごとにもと、国語の「情報に扱い方に関する事項」のみ、市の平均を下回った。	小6	国語、算数、社会、理科において市の平均正答率を上回る結果となった。また、観点別にみると、4教科すべての「知識・技能」、「思考・判断・表現」の項目で市の平均を上回っている。領域ごとにもと、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」のみ、市の平均をわずかに下回った。				

⑤		2月24日	
成果指標に対する達成状況		評価(※)	
知識・技能	市平均との比較 ・国語(全学年、市平均を上回っている) ・算数(全学年、市平均を上回っている) ・社会(5、6年ともに市平均を上回っている) ・理科(5、6年ともに市平均を上回っている)	A	
思考・判断・表現	市平均との比較 ・国語(全学年、市平均を上回っている) ・算数(全学年、市平均を上回っている) ・社会(5、6年ともに市平均を上回っている) ・理科(5、6年ともに市平均を上回っている)	A	
主体的に学習に取り組む態度	成果指標(○の勉強は好きですかの項目の肯定的回答の割合を80%以上にする) ・国語(80%を下回っているが、市平均より上回っている) ・算数(80%を下回っているが、市平均より上回っている) ・社会(どちらも上回っている) ・理科(どちらも上回っている)	B	

⑥		3月10日	
次年度への課題と改善策			
知識・技能	国語では言葉の特徴や使い方に関する事項、算数では図形に関する領域で市平均を下回る設問があった。今後も「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を併用しながら、定着を図る。		
思考・判断・表現	国語「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域において市平均を下回る学年があった。文章全体の構成や展開のモデリング提示、ICTの効果的な活用などを図り、言語活動を工夫した授業を展開していく。		
主体的に学習に取り組む態度	国語や算数の「授業の内容はよくわかる」と回答した割合は全学年で市平均を超えている。「授業で、学級の友達の間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えている」と回答した児童の割合が高いことから、自力解決、伝え合い、練り上げの時間を確保することで、児童の主体的、協働的な学びをより一層推進していく。		

※評価
 A 8割以上(達成) C 4割以上(あと一歩)
 B 6割以上(概ね達成) D 4割未満(不十分)